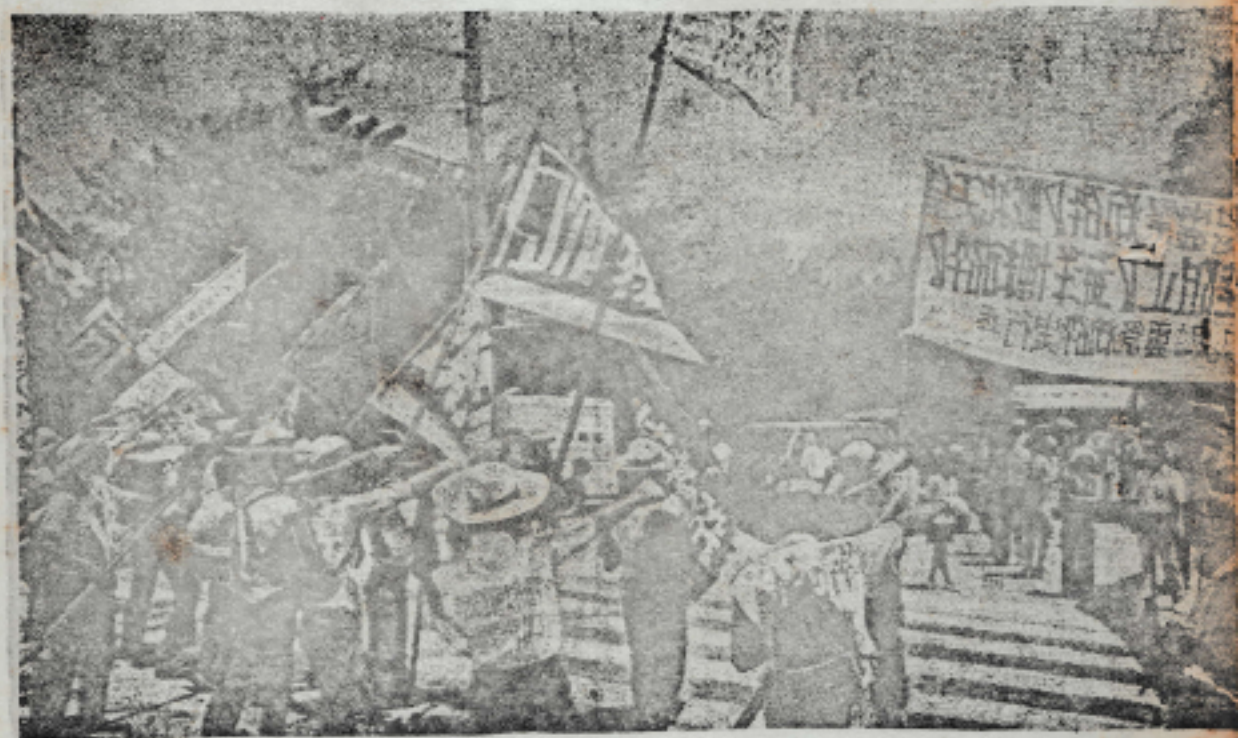


沖繩通信

第5号

□ 海洋博新碑

□ 皇太子沖繩上陸阻止



《目次》

1. はじめに	
沖繩通信編集委員会	2
2. 基調論文	
「7月の熱い島と化する、沖繩」 「森芳を阻止して、沖繩」	4
3. 我々のスローガン	15
4. 現代の強制連行と闘う（その2）	
「韓国人慰霊塔建立」と朴采沖に反対する	16
5. 6・23闘争に寄せられたアピール	
海洋博粉碎・沖繩「本土」実行委本部現闘団	20
6. 資料（1）	
6.23廖文仁ヶ丘「日の丸」慰霊祭粉碎	22
警備体制の強化と右翼反共の動向	25
船本洲治氏の死を賭けた海洋博粉碎の抗議	28
7. 資料（2）	
「7月の熱い島と化する、沖繩」 「労働者初着の闘い」	29
8. 資料（補）	
長谷川芳相発言／ 沖繩駐留米軍をみる 女性解放の闘い／ 嘉数学園闘争 等	35

はじめに



全口の子弟・姉妹たち、

「沖縄通信」がらまは、激化する日米階級闘争の中で、沖縄—本土—プロレタリア人民の国際主義的任務を提起するために、オオ号以降の海洋博粉砕への呼びかけと、オオ号で提起した「現代の強制連行」—韓国労働者の沖縄ギロ・パイン産業への導入—粉砕の視点を更に深化し、七〇年序章(七二年沖縄「返還」決定)粉砕の立場から、日米階級革命体制の最重要ポイント—沖縄解放の闘い—の中に占める天皇制をめぐる思想闘争を多岐にわたる。勇敢なこれにはならないものとして、極めて重要な任務を負っている。

それゆえ、沖縄闘争の中に占める「金武闘争を守る会」のCTS阻止闘争の詳報(後)は、七月三日から三菱粉砕、屋良粉砕への泊り込み闘争を裁判闘争の新地平を切りひらくための準備していること、七ヶ月にわたる憲法草案闘争組の闘い、民主化をかちとる共闘会議の結成として、学生自治会・父母の会・同窓会の参加を導き、高校生がらまの父母に至るまで広く層をこみながら、憲法資本を追いつめるに至っている(六・二七の沖教組と共催の七千名集会)意義の評価を、資料として提起することでお代えたいと思います。

へう、日米階級闘争の現場は、海洋博粉砕・皇太子上陸阻止、夏巻親元糾弾の激闘に受けつながら、革命的労働者人民を奮起づけていく

六、一八慶仁ヶ丘の日の丸慰霊祭粉砕・戦犯天皇糾弾、皇太子上陸阻止への激闘は、沖縄人民の曰帝による沖縄支配への闘いの怒りをもち、「本土」プロレタリア人民の排外主義と、それに屈服する沖縄労働者の一部—沖縄同建設に敵対する革命主義者—に対する奇襲は糾弾である。

我々は、断固この闘いを支持するし、「一党主義」「ソビエトをばかむける反動派をばかむる」を暴露し、「本土」プロレタリアプロレタリアを打ち毀滅する一軍隊であることも確信するものである。

その闘いを、最も主体的に受けとめ、六月二二—二三日の「日の丸慰霊祭」粉砕闘争を、権力の大増庄に反せず闘いぬいた沖縄解放同盟(準)を中心とする海洋博粉砕沖縄—「本土」実行委員会—現地共闘の闘いは

沖縄人民を奮起づけ、婦人の決起を促していること。それは、六月一九日辰水校仲言発言や、夏巻親元糾弾の婦人代表発言を革命的に実践しているのが誰であるのかを満天下に示した。

全ての労働者・兄弟・姉妹の皆さん、一部の腐敗した日和見主義者による闘争庄敷を許さず、一切の強庄を粉砕して、闘うアジア人民、とりわけ南朝鮮人民の闘いと固く連帯し、皇太子上陸阻止、カ田上、海洋博粉砕、夏巻親元糾弾の闘いを、沖縄—「本土」を貫いて繰り出すこと、この闘いは、我々は、その最前線に闘いぬく決意である。

沖縄通信編集委員会

7.17、20皇太子上陸を阻止し、

沖縄現地に総力を



6.23「日の丸討露衆」新砕即争に決起した我々は、五〇余隊列でもって、官憲の弾圧をはねのけて叩いぬいた。また、屋良を先頭に各自治体の喧伝にもかかわらず、糸満の町に「日の丸」を見せすことはできなかった。糸満の人達は、「日の丸討露衆」をはっきりと拒否した。そして、沖縄戦の怒りを卒直に我々に表明したので。日本政府と屋良県政は恐怖の色をあらわにした。原水禁古典大会沖縄大会最終日に仲吉良 理事長は、「皇太子沖縄上陸阻止 海洋博新砕」を真向うから叩き上げた。今やはっきりと「皇太子上陸阻止、海洋博反対」は、高揚し、活性化している。

断固たる叩きの隊列で、皇太子上陸を阻止し、海洋博新砕に全力を注いで、7.17-20沖縄現地に総力を、

※ ※ ※ ※ ※

はじめに

6.23が、七〇年守保の自動延長の日であったことは広く知られているが、かの太平洋戦争「沖縄戦」において、慶文大元帥で中梓牛島が切腹し、終ったその日であることはあまり知られていない。「沖縄戦」における十数万の沖縄人民の虐殺と引きかえに自らの延命を誓った日帝が、「忘れ去られた」はずの「沖縄戦」を三〇年後の今日、「美談」として持ち出さうとしていることについて、我々は注視しなければならぬ。

海洋博名譽総裁に皇太子の就任が決定して以降、7

17皇太子上陸一慰靈塔参拝がもくろまれ、8.15露国ナショナルデーに、「沖縄戦」における露国人慰靈塔の除幕式に外が訪沖することが明らかになっている。この一連の攻撃こそ、日帝の侵略反革命への沖縄人民の動員と共に、プロレタリアートに排外主義への全面屈服を要求するものに行なわれた。

我々は、7.17皇太子上陸-7.20海洋博に込められた政治的意図をみすえ、7.17皇太子沖縄上陸を阻止-7.20本部現地に弾固として決起しなければならぬ。

われわれをとりまく 情勢と任務

復帰後三年、沖縄階級即争は、復帰校運動の崩壊と浪迷の崩壊と、今再びその戦術的エネルギーを爆発させはじめている。その叩きは、七二年5.15復帰以降

急激に進行した「本土」一体化、系列化と侵略幻想の
文字通りの破壊は進行するなかで分解再編し、そして
また同じく後場は運動内左派反対派として存在してい
た「反露・奪還派」、「反露粉砕派」の様々な色合い
をもった諸潮流をも破壊せしめ、沖縄戦争終焉論、民
族自決派を大きく後景に退け、沖縄「本土」実行委
を軸とした海洋権粉砕戦争は、今や沖縄階級戦争の最
前線におぼろびつつある。このことは、文字通り、日本
帝国主義の日米侵略反革命戦略との真向からの対決を
鮮明にしたと同様に、沖縄階級戦争の質的転換とそれ
を担ったこの新たな革命的潮流の登場をこそ告げるも
のである。

周知の如くに、インド・チナ民族解放戦争は、ストナ
ム・カニホジア人民の全面勝利と、それを受けたラオ
ス左派政権の樹立として、全世界のプロレタリアート
人民、被抑圧人民にがざりなぐのうえに、勇氣と希
望をもたせている。そして南朝鮮人民の反日救国陣

る。三木訪米・天皇訪米を通して、昨秋フォードの来
日一訪韓一訪ソの破綻のとりつくろいとして、日米中
保体制のより一層の強化をはかるべく、いま一つ何が
乗りきらんとしている。そして米帝にとって、このか
んまますます、連社帝の役割の重要性と緊急性を要請し
れている。

このような国際階級戦争の現局面と米帝の動向の中
で、日帝の侵略反革命・他民族抑圧、差別分断の強化
は、ますますいっせいで進行している。昨年10、31級山
崎憲法裁判決、ハルビン差別事件を通じて日共の差
別キャンペーンをフルに動員した日帝は、解放回廊を
はじめとした部落大衆の叩く野竹者階級の共同戦争
に大打撃をうらとせ、融和主義攻撃を強めている。

そして更に、インド・チナ情勢の急激と南朝鮮人民の
反日反日救国戦争の勇まじり、それに呼応した日朝鮮
人民の叩く対して、日帝は、八月、日韓民間協議会
議一入憲法上程策動によって、韓国への新植民地支配

争は、明らかに共産主義と結合するにたなく、母一赤
も前進しえぬことこそまで成熟しており、金日成露中
——中朝共同声明、北京での中朝一インド・チナ三國
の代表団の大会合等、によって示された賦後ヤルタ、
シユネー入体制を破壊させた主体的力の留まることこそ
を知らぬい準備は、同時にカニホジアに襲撃をうけて、
米帝の古勇支配の古権をかついできた連社帝との分
岐をより鮮明に示している。

破壊したチユー・ロシ、ノルカイライ政権のみじめ
な歩は、林の明日の姿であることは、他ならぬ村自身
は誰よりもよく知っており、敗退した米帝の姿は、全
世界の支配階級を恐怖と不安のどん底に突き落した。
そして誰の目にも、これは歴史の趨勢であり、いかな
る暴虐で圧政も、これをあつとめぬことなればならぬ
ことを明らかにした。

インド・チナで敗北の衝撃をつけた米帝は、にもかか
わらず、次々ととりつくろい策をひねり出してきたこ
の強化、在日朝鮮人へのより一層の同化・抑圧・分断
直攻の攻撃を強めようとしている。

同時に、2年5、15沖縄「反露」以降、政治・経済
文化等、全領域にわたる社会再編を伴いつつ、沖縄を
太平洋の不沈空母としてつち固めようとしている。日
帝は、それらの攻撃を、社共、革マルの社会排外主義
としてのより一層の純化と、革命党の未成熟さを不可
欠の条件としてなまかとしている。古春陣一統一地方
陣の中で示された日共の小ブル反革命政体ぶりは、部
落差別キャンペーン、「教師」聖恩託、「自治体党
竹者」公僕論、「スト反対」等として、ますます純
化の一途をたどり、その例は枚挙にいとまがないほど
あざわら果てるものである。そして、「同和」は小異は
とする社会党の敗北と動揺は、古春陣におこして5%
のガイドラインが突破したはがった「いびとまらむむこ
敗北として刻印され、戦後革命の敗北を前提にしては
じめの成り上った春陣の敗北は、日帝の高度成長政策

の成長と共にあったことを思はなければならぬ。同時
に、69年秋期安保決戦敗北—70年7・7軍曹自衛隊一
72年連赤の敗北—73年樺嶋に於ける部隊差別と打ち続く
革命的左翼の思想的欠陥の露呈とその克服をめざす闘
いの中で、多くの分裂と政治的・思想的表裏を伴いな
がら、未成熟であるが、革命的左翼全体を止揚しつつ
萌芽が形成されつつある。我々は、昨年の、25以降、
「女性差別糾弾闘争」において、女性差別を許容した我
々の思想的根柢の切崩を逼して、不十分ながら、全く
新たな階級闘争への転換をむけて、メッセヤがな出発を
を画した。

今春即ち統一地方選を隔して、日本労働者階級の動
向の最も顕著な特徴は、社会・革マルの社会排外主義
としての純化と、それに変わるべき革命的左翼の取捨
の不徹底さを反映して、「一方においては、日共の伸長
にみられるように、日共ソビエト主義への思想的屈
服と、「にもかゝらず、他方において、徹底的に「単一

この総社会再編としてある。

基地なくして沖縄を語れず、沖縄が日米帝のマシマ
戦路上、最重要な位置にあることは周知のことである。
戦前・戦後一貫として沖縄の位置は、「二つのイン
ドチナをめぐる民族解放—社会主義勢力の勝利によつ
て、アジア通りの最前線として、ますますその重要性を
ましている。米軍は「基地縮小」を名目として、米軍
基地の再編統合、基地機能の一層の実体化を図りつつ、
全軍勢の大量解雇—解体攻撃をかけてきている。

全軍勢は、六〇年代後半、復帰運動の現場と共に成
長してきた沖縄労働運動の中に部隊であり、二の切り
崩しをはかることなしには米軍基地の長期にわたる存
続と基地機能の維持を困難にするところへの危機感を表
現している。

更に復帰後、返還されたにもかかわらず基地・施設は
そのままで自衛隊基地として存続し、しかも、復帰と共
に派兵された自衛隊は新設自衛隊が中心であり、米日

の階級闘争への統合環—日本労働者階級の単一の革
命的指導部を要求しはじめ、社会主義への志向を明確
にしていることである。今日、日本労働者階級の進んで
き道は、単一の革命的指導部の下に結集し、全国統一
の階級闘争として闘いつつていく以外にはないとして
そして、労働組合下部末端に至るまで自然発生的に刻
印されつつある政治的分岐を、より一層鮮明にしてゆ
くことこそ最も重要な任務であることを確認しなけれ
ばならぬ。

72.5.15「返還」以降の 日共による沖縄支配

先に述べてきたように、72.5.15「返還」以
降、日共による沖縄人民への差別分断支配を不可避に
伴いながら、沖縄の侵略反革命前線基地としての強化
が進行している。それは、沖縄の政治・経済・文化は

韓日同盟軍演習が行なわれており、日米帝によって死
活をかけて沖縄基地の強化をはからんとしている。

しかも、「返還」以降も、米兵による犯罪はあとも
断たず、「にもかゝらず、その裁判権すら今なお曖昧
なのである。更に、基地公営は航空機の爆音・酸欠・
廃油・流水・派土・枯れ葉作戦による被害、軍事演習
によるダムの水源汚染、パイプラインの危険性、核兵
器・放射能による危険等、際限なくあり、沖縄人民は
基地の中で生命の危険にさらされている。

そして、沖縄を軍事要地として打ち固めたため、
「本土」「一体化政策—差別分断支配の強化が、畢竟「
革新真政」の全面攻力の下に進行している。米軍政に
対する苛酷な支配の下で、基地にひびいてくるように
を維持してきた沖縄に、「復帰」時における「本土」
他府県での格差(教育・医療・「福祉」等)に対する
「豊かぬ沖縄県づくへり」を看板に新全統沖縄プロム
ク—沖縄振興開発計画が導入されている。「復帰」を

戦後参謀の最大の組に「オランダ」を「オランダ」に見せしめ
たは「オランダ」。

債を切る沖繩人民の闘い

沖縄防衛隊闘争は、一見複雑な様相を呈して進行し
ている。特に、「天皇・皇太子上陸阻止」、「反海洋博」
の闘いは、原水協(仲吉良新)を中心に、沖教組、電
通、国公行、高教組、自治博等、国公行中心として集
結した。一定の意志表明を行ない、青年協や県労協(こ
れらの二つを上げれば行なっている)。(6.28集会)
オランダ、オランダ、オランダでも単組の半数以上は
闘争を持続し、5%ガイドラインの突破をめざして激
しい攻勢を展開し、とくに結成向もない民間単組の申
こは目立っている。

オランダ、75春闘において特徴的なのは、嘉数学園、

化した上に見える沖縄人民の反攻を盛大させている。
「復帰」以降、「本土」資本の暴力的な「進出」によ
つて、「オランダ」の米人バー街や「本土」人に占拠され
海洋博工事におもむく「本土」労働者による沖縄人民
への暴行は相次ぐ中で、沖縄人民の怒りは、極点にま
で達している。

とりわけ今年に入つて、二、三月の米海軍隊射撃
訓練隊射撃阻止闘争、四月米兵による女子中学生暴
行糾弾闘争、5、15沖縄処分糾弾集会における暴行
糾弾隊の口和親主義指導を拒否して叩かれた那覇署
前屋入り込み闘争と発展しつゝあり、しかも海洋博新研
究機関「本土」実行委による、昨年5、19、5、20本部現
地闘争と昨秋統一現地闘争以降の住民と結合した地
道闘争と結びついて、7、17皇太子上陸阻止、7、20海
洋博新研本部現地闘争の二点にむけて展開しつゝある。
6、18早朝には摩文仁ヶ丘の「本土」各県別闘争への
スピーキでの抗議の意志が表明され、沖縄全島で反復を

「オランダ」闘争、この闘争の行方について、この会社創り結
託した暴力団の組織的介入が懸念されており、とくにも
つても悪なものとしてのオランダセル労働三役に
対する計画的襲撃等は、去る六月二二日の書記長に対
する鉄パイプによる襲撃をとり、二度にも及び、今
や全県的規模の闘いが急速に進められている。

そしてオランダ、全県労、全港海の闘いが、最も大き
な闘いとして現に進行されている。六九年に二八〇〇
〇名に達した基地労働者は、現在二二七三五人と大巾に減
少している。米軍当局は、現在基地機能を減退させる
二二〇〇〇、逆に再編隊令によって台理化を強行し、七
二年復帰前に六八三三三名、復帰後に六九〇三三名という
(四月末現在)大量解雇を強行し、七五年度中に二二
三五人の解雇を公表している(即解雇、五二二八人)。
二二〇〇〇に七二年は沖縄「返還」海洋博を謳じた
日帝の沖縄支配の暴虐は、「返還」以降、一時沈黙

まぎれぬし、6、23では摩文仁ヶ丘で「日の丸慰霊祭」
粉砕の闘いが果敢に闘われた。

反還(奪還)派、反還派(併
合)派、自決派(支持)派、
市場、自決派、自決派、
闘争、自決派、自決派、
任務として闘ったの

沖縄人民の闘いの昂場にもかかわらず、社共、軍マ
ルの沖縄闘争終焉論はもとより、革命的左翼の内部か
らもマル書風の昨春闘争の過程で、「沖縄でははくは
朝鮮内戦だ」という排外主義への転落を生み出し、諸
党派の沖縄闘争に対する日和見主義は、その混乱を示
している。
奪還派は、「日米運命共同体」論をその根拠にしつ
つも、帝國主義が資本主義の最高の発展段階である「
とき見抜かえず、それが破産するや、「真の返還」は

とて手首にしなければならぬ。ブルジョア民主主義の美化する
急進民主主義者であることを見破った。かの中核派の
大日本民族主義への転落は、沖縄闘争の永続化を対力
クマル闘争への流し込みとして表現されている。

他方、「反遷」粉砕派は、なほ前線的に併合粉砕し
自決権支持と主張をひきつゝ、日帝の暴力的な沖縄支
配の根柢を叩ききえず、沖縄人民に一切の矛盾の叩
争を強制する反動である。「本土」プロは、在「本土」
沖縄人民の組織化をすればよいとする見解こそ、革マ
ル派の純プロ主義に道を譲り、現に進行している沖縄
の普通民の叩いにツバをはきかけ、「本土」に叩きだ
されてから二階にやろつといつ敗北主義である。

西一派は、この向の沖縄闘争を真に叩いて来なかつ
た結果、併合粉砕派に脱落し、侵略反革命前線基軸化
阻止といつ十年前のスローガンを持ち出してくる。ま
通り歴史の歯車を回転させる反動であることを見破り
てしまふ。

我々は、この向の沖縄人民の叩いだが、一昨年秋に発
足した沖縄「本土」を買く単一の沖縄向の叩いと、
「本土」一沖縄を買く単一のプロ独樹立の叩いと、固
い団結を向っていることをいふまでもなく、二のようは更地か
ら、「反遷」派一反遷粉砕派の立場を叩いてうねばな
らぬ。

全てのプロレタリアの兄弟姉妹の皆さん、
沖縄闘争終焉論者の敵対をはなれ、「空港で赤旗
一本からせなれ」という国家権力の戒厳令、「皇太子
歓迎、海洋博勝利」を叫ぶ右翼反共主義者を粉砕し、
総力をあげて7・17〜20現地闘争に結集して、「皇太
子上陸実力阻止、海洋博粉砕」叩争を叩いぬよう、

※
朝鮮人虐殺を忘れるな。天皇、皇太子沖縄上陸阻止、
日の丸勸告粉砕、
「韓国入封鎖塔」建立阻止、
韓国テロ粉砕、
朴承中阻止、
白韓定期国僚会議粉砕、
海洋博粉砕に連撃せよ。

我々のスローガン

海洋博粉砕 ● 沖縄解放

天皇・白皇族来沖阻止 ● 慰霊碑参拝阻止 ●

日米帝の侵略反革命叩前線基解体 ●

自衛隊の沖縄派兵阻止 ●
米海兵隊の実演習阻止 ●
米海兵隊の沖縄女性暴行糾弾 ●

釣魚台略奪阻止 ● 日韓大陸棚協定粉砕 ●

買春観光糾弾 ●

「本土」に独占資本の沖縄進出阻止 ● C・T・S建設阻止 ●

海洋博を「テロ」とする沖縄人民の「本土」への叩きだし攻

撃粉砕 ● 在「本土」に沖縄人民への差別一同化攻撃粉砕 ●

南朝鮮人民の反共反日救国闘争連帯 ● 朴の訪中策動粉砕 ●

日韓定期国僚会議入管法上程策動粉砕 ●

7・17皇太子沖縄上陸阻止 ●

7・20本部現地闘争に総決起しよう ●

『韓国人慰霊塔建立』と朴来沖に反対する 現代の強制連行と辱めもの2

かつて、海洋博関連建設事業及び、同関連ホテル事業への、韓国労働者の「導入」の動きがあった。これは、ブルジョア法でも「復帰特別措置」の拡大解釈のみによって、キビ・パインに韓国労働者を「導入」してあり、対産業界が限定されていること、もう一つは、労働婦人部の反対行動、大会決議等があったことで、一応阻止されている。海洋博に伴う「現代の強制連行」

粉碎の叫びは、当時はこのようにはつきりした動きとの叫びとして提起されたものである。しかし、今日の段階では、沖繩への「韓国領事館」設置、沖繩と韓国の親善協会（二月設立）——元日慶会の大物右翼が中心——、海洋博期間中の八月十五日光復節（朝鮮の

解放記念日）における各参加国ナショナルデーの一つである「韓国デー」、同日予定の「韓国人慰霊塔」建立、朴の来沖として、もっと根の深いところで進行している。

これは何を示しているか。「復帰」後、渡航制限が解除されてから、朝鮮総連本部が設立され、キビ・パインへの「強制連行」反対、領事館反対、慰霊塔反対の行動や、沖朝人民の友好連帯、祖国統一運動を遂めてきた在沖朝鮮人に対する台断攻撃であり、朝鮮南北分断固定化の策動に他ならない。

在沖米軍オセロ心理作戦部隊の解体後、KCC-A局長がひき続き残留し、キビ・パイン労働者の監視の目的

でKCC-Aが来沖しているなど、日帝一朴による南北台断攻撃が強化されている。慰霊塔はその思想宣伝に他ならない。また、朴来沖は、激化する韓国人民の反朴、反日（帝）救国闘争に恐怖し、日帝の「援助」を要請し、「日韓友好」を宣伝し、日帝の韓国新植民地主義支配を永久化するものである。

サトウキビ作、パイン工場への「強制連行」は、将来の「外国人労働者導入の制限解除」にむけた試みである。韓国労働者、人民の生き血を吸い、貧困と抑圧を強めているのは他ならぬ日帝の支配であり、韓国労働者人民は、日本に、沖繩に、生活の糧を求めて、「密航」や、「研修生」、「季節工」として渡航を余儀なくされている。他ならぬ「強制連行」の性格は、ここから生じる。更に、医師「導入」は、「本土」の二分の一の水準である沖繩より更に劣悪な医療事情にあるここが、一層の困難を押しつけるものである。これは、医療を受けたくてもできない貧困に韓国を叩きこ

み、また、多くの「離島」住民の切実な医療への要求を利用したもので、決定的に犯罪的である。これと神戸などの「准畜生」としての「研修」は、異名高きSEAMHO（東南アジア医療保健機構）構想の具体的な理われの一つであり、医療の国際交流を騙して、医療の面から侵略反革命を行なっているのである。だが、「研修」とは名ばかりで、低賃金重労働と、資格が認められず、「研修」の名に値しない。

実際、東南アジア各国から、技術研修という名目で各産業に「外国人労働者導入」が行はわれているが、その多くは、ときどき非合法に入境せしめ、しばしば労働条件が酷い、ほとんどが低賃金重労働、重労働であり、加えて、旅券であるため二〇%の税金を二つひかれ、入管体制の下で政治的無権利に陥れ込まれており、最近ひんぱんに、労基署に訴えがもたれているのが実情である。

にも拘らず、ついでそれだからこそ日本政府は

外国人労働者の導入禁止を一方の協議で解きのみ行なっているものであり、雇用対策基本計画を変更することは可能である。

ところで、不況時に真先に首を切られる労働者の一つは、「外国人」である。

現在の沖縄の場合、農業政策との関係が重要である。日中復交の口實のおくり出し拒否後、政府の農業切り捨て策のことは、台湾労働者の低廉な労働力に変わって機械化を追求し、それでは現在不可能であるため、復帰特別措置の拡大解釈として韓国からの「導入」を行なっている。製糖資本、パッカー（パイナップル）の要請——農務省部——国という形で行なわれている。特別措置法は五年期限なので、縮少の方向にあるが、今年は北部のパイナップル工場に三九〇人が許可された。これは海洋博の会場や周辺で求人が異常に高賃金で行なわれ、失業者が五％、二万人であるにもかかわらず、北部では求人難であるという事情のためである。海洋

博は半年間の予定なので、恒常的雇用確保としては成り立たないし、労働者としても、海洋博業務は競争力がないのである。

つまりは、「強制連行」は、海洋博を補完するものである。

泉重山部やパッカー側は、今年限りと言っているが、又、八重山では導入しない方針であるが、キビ低価格政策やパイナップル不況をもたらす現行制度のものに「強制連行」の根拠があり、且つ日帝は、「外国人労働者導入」の豊富を経験をしたのである。いつも困った時は「連行」できる体制がつけられつつあることに向願なのであり、それを支えるのが日帝の韓国新植民地支配による過剰労働者の存在であり、カイライ林政権の「国民的農民政策」である。そして、日帝の三六年にわたって朝鮮併合という歴史的差別的土壌の上にこそはじめて存在していることである。

その歴史こそ、沖縄戦における正確な人数不明の多

勢の朝鮮人強制連行を許し、重労働と飢餓、強烈な日

射の下にさらし、婦人を日本兵の歐殺にさらすことを許し、米帝の砲弾の雨の中に追いやり、あるいは自ら手を下して虐殺した日本軍の極悪非道、兇害にもとる暴虐を許した歴史なのであり、この二つの歴史的反省を、労働者階級の国籍に左右されない利益の闘争で行わなければならない。

日帝—朴による「韓国人慰霊塔」建立は、この沖縄戦における朝鮮人虐殺、強制連行を美化し、沖縄人虐殺を美化するのと同様に、「日の丸」の血に染まった墓碑と死者の首を飾るものではないのか。

それは、八月十五日の祖国の解放を知った朝鮮人は、宮中での解散を祝うデモを行ったところの不屈の反日（帝）抵抗の叫びを罵撃するのである。抵抗と解放への不屈の闘争史を、他ならぬ日帝のカイライと化して、朴政権や、日帝—天皇主義者—右翼は、歪曲して、「光復節」を祝うところこそ、一切の虚偽とペテン

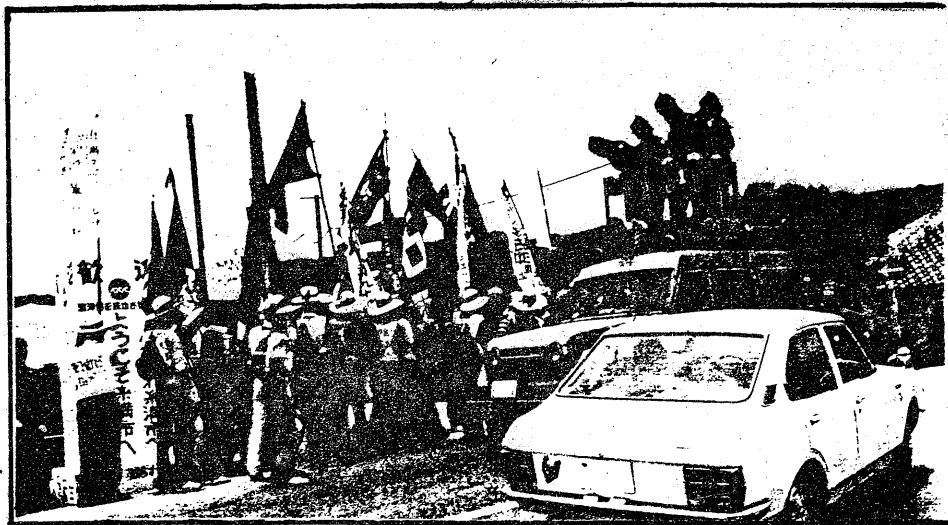
は飛んでいる。

だが、沖縄解放闘争の戦列には、「朴米中はないだろつ」とする徹底した日和皇主義者がいる。イーダミナ解放後の半日帝の戦略が、沖縄をめぐってどう再編され、韓国と沖縄の位置がどのように重要になっっているのか。「強制連行」はなぜあるのだろうかを彼らに問うことは理解できないのであろうか。沖縄解放闘争の戦列は、ようやく沖縄階級闘争を動かす第一歩に踏み込んだばかりであり、大衆的力量をもつに至った。そのことは種々雑多な投機主義分子や、急進主義をまがれ、まがれることになっている。だからこそ、急進主義の隠れた投機主義の本質を暴き出し、批判し解体する階級闘争は重要である。この点では、運動の量的拡大に目を奪われてはならないのであり、徹底して「狭量精神」でもって、寛大さではなくて仮借のなきで、もって闘争しなければならない。

6.23 闘争

に寄せられたアピール

■ 海洋博粉砕・沖縄—「本土」
実行委員会本部現闘団



の23日に決起された闘争者・学生のみならず、

海洋博粉砕闘争の最前線たる沖縄現地に於いて大胆に闘い抜いている。
海洋博粉砕・沖縄—「本土」実行委員会本部現闘団より日本の闘いを前線系
とした海洋博粉砕・皇太子沖縄上陸決死阻止の闘いへ向けたいアピールを
送ります。

タラ—る闘争の地平は沖縄—「本土」を貫く闘いに止まらずに警察権
力の介入を拒むのけ、あらゆる敵対し日和見主義を粉砕して断固の闘いを
求めている。

皇太子上陸阻止・海洋博粉砕の闘いは実行委員会本部の切り開いた道で海
つりの後に、條原の火のこころ燃え広がっている。

職場の労働者は討論を兼ねる闘争と闘争体制を整え、農漁民、地域住民
は生活防衛の闘いと関連させ闘いに決起している。

沖縄「本土」南部住民は日本軍人の痕跡を今こそ叩きつけようとしてお
り、さび「日の丸」慰霊祭粉砕闘争への共感を示している。

全般的に皇太子上陸阻止・海洋博粉砕闘争の爆発的展開は今や誰の目
にも明らかである。

すでに周知の通り、歴史的に「本土」各県の慰霊塔に対する怒り

の闘いが開始されているのだ。

右翼・天皇主義者の暴業による日革命と沖縄人民、闘争「本土」人民との
激然たる血で血を流す闘いは歴史を塗り替えていくと信じて闘っている
闘い。

在「本土」沖縄人「本土」人民のみならず、

日本の闘いの地平を打ち固め海洋博決戦へ進軍せよ。

ろろ皇太子上陸決死阻止の闘いへ向け沖縄現地に総力を集中せよ。

沖縄人民「本土」人民の相互の立場をふまえた闘いは一切を明らかに
かたづけられるのだ。

海洋博決戦勝利！

皇太子上陸決死阻止！

沖縄解放！

海洋博粉砕・沖縄—「本土」実行委員会本部現闘団

一九七五・六・二三

資料
(一)

関係者に大きな

塔の霊慰
書き落
事件

ショック

琉球新報

6月19日

不敬罪で捜査 糸満署

県首脳も現場を視察

【糸満】本島最大の霊塔である霊塔が十八日、何者かによって赤ペンキで汚された落書き事件は、同地(龍郷)の塔を築いた本島各県、県民(大島)のショックを大きくしている。十九日(龍郷)の「心配する参拝者がひびきで」つれづれに「汚れ」が、から騒ぎをよぶ「一歩」を伴った。同地を管理する龍郷警察署(仲田警察事務局長)は午前八時から赤ペンキの除け作業に当たっている。臨時龍郷十八人の霊塔の塔に二人づつ配置、シンナー、重酸、サンダーなどを除去している。だが赤ペンキは石塔にしみこみ、完全に消すのは難しい。作業員は「汚れた石塔を元の色に戻すのは難しい」と話し、今後の処理のしかたを警察に相談している。

汚された霊塔には朝から見舞い香りがひびき、県からも屋敷知事はじめ県首脳がかけつけ、現場視察をした。また龍郷連合会の会報和信会報も現場視察をした。会報会長は「驚きを感じ、遺族の心をなやましてあげたい」と語りを述べた。

同地(龍郷)は県都計課と探検隊の二重管理になり、責任はあてない状態。同公団全体は県都計課、龍郷の塔は探検隊と龍郷事務所が管理している。龍郷二人は県都計課と契約、同公団が

備している。犯罪者は龍郷署が一時の間で「質問」したが、同地には「異音なし」と記入され、犯め、県土地運送を委託している。龍郷署は同公団地全体を管理している。龍郷署に責任があるのか、直接の責任を、龍郷事務所が責任があるのかは、まだ不明である。仲田事務局長は「龍郷署は龍郷事務所とは直接の関係はない」と話している。今後は警察と連携し、龍郷署に責任を押しつける。

一方、糸満署は龍郷署を目前に同地(龍郷)に派出の設置計画を進め、県土地運送を委託している。



20日に行われる慰霊祭を前に落書きの除去作業を急ぐ愛媛之塔—原文に龍郷公団



靈域に 天皇糾弾の落書き

摩文仁 戦跡公園

赤ペンキべりつとり

41碑中31「ひどい」と遺族 碑が被害

【本報】この日、戦後初めての大規模な慰霊祭が行われ、戦没者遺族ら約千四百人が、沖縄県摩文仁の戦跡公園に集った。同日、赤ペンキで戦没者遺族らの名前が書きつけられた。同日、戦跡公園の各碑の四十一碑のうち三十一碑が被害を受けた。赤ペンキで「ひどい」と落書きされた。同日、戦跡公園の各碑の四十一碑のうち三十一碑が被害を受けた。赤ペンキで「ひどい」と落書きされた。同日、戦跡公園の各碑の四十一碑のうち三十一碑が被害を受けた。赤ペンキで「ひどい」と落書きされた。

遺族に申し訳ない

新垣副知事が談話

動物以下の 悪質な行為

新垣副知事は、この日、戦跡公園に集った慰霊祭に出席し、戦没者遺族らと懇話した。新垣副知事は、この日、戦跡公園に集った慰霊祭に出席し、戦没者遺族らと懇話した。新垣副知事は、この日、戦跡公園に集った慰霊祭に出席し、戦没者遺族らと懇話した。

警察官2,400人

県外応援

海洋博警備体制決まる

警備車も180台出動

ヘリ2機 まるで「戒厳令下」

県外からの応援警察官約千四百人、ヘリコプター二機、警備車約百八十台、警察の海洋博警備体制が決まった。県公安委員会と警察庁に援助要請を行った。県警はこれまで、警察庁、九州地区警察局長と海洋博対策を練ってきたが、観客は四百四十万人を想定、そのうえ、皇太子殿下を始め、三木首相、各閣僚、外国要人などの来博に伴う警備警護、海洋博反対を打ち出している過激派の動きなどから、沖縄県警の現陣容、装備では万全な体制が取れず、新編警備隊による警備、各府県警の応援を求めた。県外からの応援を求めたのは昭和四十七年復旧時の通例通りである。沖縄県警の警備隊をめぐって、ヘリコプターには三十七人の空前な警備体制となる。後方治安は集中、プロシアン運用で十分確保できると、県警は自信を持っている。

海洋博には本土や外国から約四百四十万人の観客が予想されており、難路での事故、台風発生に伴う突発事故・災害、航空の支障口・那覇から会場まで遠距離で、ヘリコプターは約五百九十台の車両が移動することによる交通渋滞を備えている。しかし皇太子殿下や要人などの警備警護、海洋博反対を打ち出している過激派の警備で後方治安を確保する予定だといふ。これにより海

百八十人の出動も応援している。ヘリコプターは、県外からの交通情報、事故現場での救助活動活動に当たる。警察が警戒しているのは、過激派の動き、地元には赤軍派活動家焼身事件、警備警護警備事件など、ヘリコプターは「海洋博反対」「皇太子殿下阻止」を叫ぶなど、なされた。動機をめぐって、「天皇訪米阻止闘争」の前段として、ヘリコプターが、羽田空港での「皇太子殿下阻止」の闘争宣言、さらには、皇太子の沖縄上陸阻止を求めている。このため、県警は、警備隊をめぐって、警戒した行動、また、ヘリコプター作戦を練っているといわれる。

皇太子来沖反対 はけしからん

右翼来沖の動き

左右衝突に緊張

県警、警戒体制を強化へ

天皇御慶賀を唱える本土の右翼が「皇太子殿下と来沖のソコソコ」のため来沖する動きがある。このほか原警備局がキヤッチした情報によると、関東、関西に別々を持つ行動右翼教団体が「皇太子殿下のご訪問に反対する」として「はけしからん」として皇太子の行動右翼何人かを沖縄に送り込む準備を進めているという。この中には過激な行動右翼も含まれているといわれ、その動きが心配されている。すでに県原水協や青年労働者などが「皇太子来沖反対」を打ち出し、過激派学生らは「暴力阻止」を叫んでいるところ、警備局側では行動右翼と「皇太子来沖反対」を叫ぶ左翼との衝突もあり得るとして警戒、警戒体制をさらに強めている。

全国には右翼団体が、日本水会を始め、大日本愛国党、防共挺身隊など約三百余団体もある。その中でも関西を根拠地にして活動している大日本水会などが、いわゆる行動右翼として知られる大きな団体の中に、行動右翼という派閥は多いが、七十年代に入って極端な行動右翼として知られる過激な行動右翼も出てきた。これら右翼側がこれら左派と対決する際に、軍用訓練場、行動右翼の神輿と信じている。右翼テロリストはゲリラ的に二人で行動を起こす傾向があるだけに、県警は海、空港でのチェックと本土でマークされている問題の右翼一人ひとりの動きをマークするよう他府県警に依頼している。いま、本土の行動右翼は二日か三日で兵庫、明石市で開かれていた日教組定期大会への反対行動で手いっぱいだったが、日教組への反対行動が終わりたい沖縄への支援軍を送り込みを図るようだった。だが、県警は「本土から潜入した行動右翼によるゲリラ行動で、元の民主団体の幹部が攫われる可能性も出てきた」として厳しい警戒体制をしく構えである。

精神障害者を 強制収容

6/20 沖縄
71L2

「皇太子来沖」に備え

県警がリストアップ

皇太子殿下を迎えて開催される沖縄博覧会を目前にして、警備、防犯体制を固めている県警は、このほか、県内に住む精神障害者の疑いのある人々をリストアップ、六月十一日付で県警環境保護課にリストアップした人々の精神鑑定、強制収容などの措置を求めた。しかし、精神衛生法による警察業務は一般及び家族から自傷他害の疑いがあるとの訴えも犯罪者について必要が認められた場合、所轄保健所に申し回すことあり、警察サイドから精神障害者の掘り起しは通常行われておらず、県警防犯課は、精神鑑定、強制収容の必要を感じ、根拠が不十分なため警察資料としておらず、警察側からの精神鑑定、強制収容などの要請を拒んだ。

基本的人権そこねる 県予防課は断る

リストを作ったのは、県警防犯課で、各地区警察署を通じて地域住民の情報を集めて、精神障害者の疑いのある人々をリストアップした。その中には十九歳から六十歳まで、そのうち十代から四十代の人々が大半を占めている。職業は無職が多い、労働者、農業、大工といった職業も含まれ、備考欄にはいずれも判別性が不明である」と強調している。

これに対し県予防課は「精神障害者の鑑定及び収容は、一般、家族、警察などからの通報によるものではなく、犯罪容疑者の場合は警察からの鑑定依頼もある。しかし、今回の場合は、そういう状況にあつて自傷他害の疑いがあるというのか、具体的な説明は全くない。これは、鑑定のしようがない。警察の通報業務とは理解できない。基本的人権をそこねかねない」と非難している。

県予防課は「精神障害者の疑いのある人々をリストアップし、六月十一日付で県警環境保護課にリストアップした人々の精神鑑定、強制収容などの措置を求めた。しかし、精神衛生法による警察業務は一般及び家族から自傷他害の疑いがあるとの訴えも犯罪者について必要が認められた場合、所轄保健所に申し回すことあり、警察サイドから精神障害者の掘り起しは通常行われておらず、県警防犯課は、精神鑑定、強制収容の必要を感じ、根拠が不十分なため警察資料としておらず、警察側からの精神鑑定、強制収容などの要請を拒んだ。」

海洋博闘争への激か

過激派ツクに総力 警備 当局

かくまった男に逮捕歴

共産同赤軍派の釜ヶ崎共闘会議メンバー、船本邦治(三)の脱身自殺は異常準備
当局をはじめ県民に大きな衝撃を与えている。船本がなぜ脱身自殺を図ったの
か、今ナニに留まれている。過激派各セクトが「海洋博粉砕」暴走来油阻止」
を叫んで六月段階から活発な動きをみせていることから船本の脱身自殺が当面
四十八年五月三日張りをしている。七月五日の暴走犯罪は海博闘争の激化した

赤軍活動家 焼身自殺事件

「船本をかくまっていたと出頭」派と結びつけるなら思想的に赤軍
してきた若い男は以前「プロ青」派に近い、いわゆる赤軍シンパの
同」という過激派セクトに加わっ
ていたと、釜ヶ崎共闘の幹部だっ
た。釜ヶ崎共闘会議は共闘会議と
いう名前通りの、アナキストや
ノンヤクト・ラジカルな者の奇
集まりである黒ヘルグループ。こ
れ派セクトの中であつた過激派
をたづねた不明のため、徹底的
な洗い出し作業に着手した。
日本赤軍や過激派を担当し
ている警察庁公安三課の話によ
ると船本は釜ヶ崎共闘のメンバー
だが、秘密に赤軍派とはい
言えないといっている。しして赤軍

「皇太子来油阻止」海洋博粉砕」を同じく叫ぶが具
體的行動を取らないうん対す
る批判を行つた。一方、二十日深夜
に船本が海博会場に潜入して
「皇太子来油阻止」海洋博粉砕」を
叫びながら暴走した。船本は海博
会場に潜入して「皇太子来油阻止」
海洋博粉砕」を叫びながら暴走した。
船本は海博会場に潜入して「皇太子
来油阻止」海洋博粉砕」を叫びながら
暴走した。船本は海博会場に潜入して
「皇太子来油阻止」海洋博粉砕」を叫
びながら暴走した。船本は海博会場に
潜入して「皇太子来油阻止」海洋博粉
砕」を叫びながら暴走した。船本は海
博会場に潜入して「皇太子来油阻止」
海洋博粉砕」を叫びながら暴走した。

反海洋博で総決起大会

10日に県労協、沖教組が共催

7月の熱い島と化する 沖縄労働者の叫び

資料(二)

県労協(藤田康吉議長、組合員、反対派は約五万人)は、沖教組(平野藤三議長、組合員二万三千人)と共に、七月十日午後五時半に県庁前広場に集り、総決起大会を開催し、海洋博反対の叫びを上げた。大会には、県労協、沖教組、学生、労働者、市民など約五千人が参加した。大会は、まず藤田議長による開会宣言から始まり、平野議長による挨拶で開会された。平野氏は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。彼は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。彼は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。

大会は、七月十日午後五時半に県庁前広場に集り、総決起大会を開催し、海洋博反対の叫びを上げた。大会には、県労協、沖教組、学生、労働者、市民など約五千人が参加した。大会は、まず藤田議長による開会宣言から始まり、平野議長による挨拶で開会された。平野氏は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。彼は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。彼は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。

大会は、七月十日午後五時半に県庁前広場に集り、総決起大会を開催し、海洋博反対の叫びを上げた。大会には、県労協、沖教組、学生、労働者、市民など約五千人が参加した。大会は、まず藤田議長による開会宣言から始まり、平野議長による挨拶で開会された。平野氏は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。彼は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。彼は、海洋博の開催が、沖縄の歴史、文化、生活、環境を破壊するものであると痛切な思いを述べた。

皇太子来沖反对

で行動

自治労県本

特別業務を拒否

執行委 当日は職場大会も で決定

自治労沖縄県本（仲吉良新委員長、一万千人）が一日の執行委員会で「皇太子来沖反对」で実行行動を決めた。具体的には皇太子来沖に連帯する特別業務の拒否、各組織で来沖当日早朝時間食い込みの職場大会など。来沖反对については国防労、マンニ労働が態度表明しているが、実行行動を打ち出したのは自治労が初めてで、県庁職員、市町村職員として皇太子来沖に連帯の深い職場を抱えていること、また県内でもっとも組織力の大きい自治労が具体的な行動を打ち出した影響は大きい。県原水協段階で論議されている県民大会の開催については理事団体が自治労として各構成団体との撤回しを求めていくことになった。

また来沖当日は自治労県下の県、各市町村で午前八時半の業務開始から十九日間の食い込み職場大会が開かれる。

海洋博の開会式に出席する皇太子殿下の来沖については、これまで県水協内部で回復地に対する県民の不満をなすりつけようとする海洋博の意図を覆い隠すものとして、六月十七日から県内で開かれた「原水協世界大会沖縄大会」でも同じ議論を受けて大会宣

言で「皇太子来沖反对」をとり上げたが、具体的な行動については、各組織でそれぞれ討議を深めるといって、その後の動きが注目されていた。

皇太子殿下の来沖に対する反対行動をめぐる議論は、県、市町村職員として関係業務の多い自治労の動きが力強くなされていた。それだけに原水協の組織としても県民大会の開催も具体的な行動の展開に大きく傾く公算だ。

自治労が拒否を打ち出した皇太子殿下の来沖開連の特別業務については原職労はじめ関係市町村職労が具体的に洗い出しているが、保健所職員による宿泊所の衛生検査、出迎える車の運転、歓迎準備などに影響は大きく、少なからず歓迎ムードは影をひびかすことになる見通し。

6/30 琉球新報

約千人解雇

地者 基 労働

県外部のまとめだと、県内の基地労働者は三月末現在一万余七千三百五十八人（陸軍七千八百八十八人、空軍二千三百三十五人、海兵隊千四百二十八人、ORP八百三十五人、海軍四百六十七人）。ピークであった六九年当時の二万八千人からすると、この六年間で約一万六千人、毎年二千六百人余が少なくなるといえる減少ぶりだ。三月十日付の千人規模の解雇、また三月以降の、さまたれ解雇を加えると、米軍の現会計年度が終了す

さらに三千人の整理準備

雇用不安、一層高まる

米軍が深刻な社会問題になっている中で千人規模の基地労働者が三日付けで解雇される。さる五月十六日に通告された陸軍関係の八百五十一人と五月段階で通告してきた油壺地、ノグチヤン（ORP）関係四十七人のほか、別な解雇通告がある。千人規模の解雇準備はここ初めてだが、県労働商工部によると、ことしにはいって米軍不安も高まってきたと報告されている。七月四十四人については、さきに油壺地基地の再編統合にあわせた動きと関連しての雇用不安も高まってきた。米軍が今後の基地労働者の不安も大きい。厳しい労働事情の中で基地労働者の再雇用問題がいよいよ、正念場を迎えている。



県外部のまとめだと、県内の基地労働者は三月末現在一万余七千三百五十八人（陸軍七千八百八十八人、空軍二千三百三十五人、海兵隊千四百二十八人、ORP八百三十五人、海軍四百六十七人）。ピークであった六九年当時の二万八千人からすると、この六年間で約一万六千人、毎年二千六百人余が少なくなるといえる減少ぶりだ。三月十日付の千人規模の解雇、また三月以降の、さまたれ解雇を加えると、米軍の現会計年度が終了す

減少の一途をたどる基地労働者だが、そのほとんどの米軍による解雇準備を迫られている。昭和四十七年五月の復帰時からこれまで（三月）二十五日現在、解雇された基地労働者の数は、今九百二十五人、整理が始まった昭和四十

一方的に犠牲を強要している」といって叫び続けている。不況に加え基地労働者も、県内の失業率も高まっている。現在一万七千八百三十四人のうち基地関係職業者が四千七百七人を占めている。また、四千七百七人の求職者のうち失業保険の

受給者は千二百六十三人に過ぎず、大部分が失業保険も切れた中で職を探している状態。職安課で扱われたこの数字が基地関係職業者の苦境、再就職の困難な状況を浮き彫りにしている。

『弾圧』精神障害者の警備、名目にした、海洋博、皇太子訪沖の警備を名目にした、

患者狩りを許すな！

「弾圧」患者、精神者、市民の被害は、
 すでに新聞報章に述べられています。警備防止課は、「
 県内の精神『障害者』の数は約百八人」とリポート
 して、「県の警察課に反対して、その人たちの精神鑑査、
 強制収容を要請」がしています。

これは、海洋博警備隊で、皇太子夫妻の来沖にとも
 なたものと言われているが、「この『精神』障害者は向
 ききるかわからない」という意見にもよくよくあり、
 ますます差別を拡大するものであり、断じて許されるべき
 ものではありません。「このままでも」「本土」各県では、夫
 皇・皇族の訪問先では、「このように、患者」狩りがおこな
 われ、また、オリエンティック大阪万博でも行われたい
 へ、集々の問題もこのことです。

すでに、「この新聞報章」によつて、某病院では、「患者」
 のありだに動揺がおこり、医師の方々も、「これを『
 金持子』からの解放をはじめ、病院改革をこころに
 逆行するものがある」との世評がままおこっています。

精神神経学会の沖繩医療委員会では、「犯罪を未然防止す
 る」という名目で、危険な者を社会から排除し、あく保安処
 分である。何もいらないから取り押さなければなら
 ない」というのは患者の自信を、失わせるものである。
 学会でも、「この問題もとりあげてよく」と言っています

一昨年、国民健康調査の一つとして、精神衛生実態
 調査が行われた際にも、由緒長い学校、まかりか
 ませぬというところがありました。わたしたちの会では、
 この問題を、重大な人権侵害が伴い、また、刑法「改正」
 案の中の保安処分新設に向けたステップとしてつらえて、
 反対運動を行いました。ところが、昨年に、県独自で定
 して来た(実は、日本政府一厚生省のテコ入れ)の調査
 は、調査する金も、人もいなし、また、保健婦さん
 や、保健所職員も反対が行われました。これに、ゴウ
 をこらした県政は、海洋博を一ヶ月あとにひかえ、
 皇太子の来沖が予定され、原水協、高教組北部支部
 全連痛、国公労をはじめ、労働者の反対行動が予定され、
 また、会場付近の、郵政の反対行動が行われようとするこ
 から、県警が真のまの「患者」狩りのりたしたもの

「か」ながら、「このように」「治療」「患者」狩りを許すことにより、
 となす。「治療」目的など、
 たた「危険性の軽減」に、強制収容する
 このようは、患者の態度も、保安処分が
 新設された場合の「こころを分けて予想させる
 ものです。

現在の精神衛生法は、「一応」治療を
 目的とすると言いつながら、強制収容など
 の条文があり、基本的には、治療、
 健保、生活保護をこころに、
 ら（もちろん、採果的は口頭で）な
 ものです。

県警は、「この憲法」「精神衛生法」を、
 目的に改定し、警察の手にする「患者」
 弾圧、労働者、人民弾圧をかけること
 のです。
 すでに「患者」労働者、市民の身
 ん。

皇太子警備を名目にした実質的保安
 処分攻撃を断平糾弾し、「患者」狩りを
 許さないために、病院、会場、地域、学
 園から、県警への抵抗行動をままおこ
 ませよう。

そして、刑法「改正」、保安処分新設
 粉砕にたちあがりますよ。

海洋博粉砕！

皇太子来沖阻止！

刑法改「正」保安処分新設
 粉砕！

県警による実質的保
 安処分攻撃粉砕！

那八史野使着社書籍 ZONDO

沖繩の医療問題を考える会



1975・6・19
発行 沖縄県教職員組合
那覇市公認184の14
電話 (33)0161・0162 番
発行人 平敷 静 男
印刷 教 宣 社
電話 54-3024

沖教組各分会は十割動員を貫
徹し大会を成功させよう！

宮国理事長退陣！団交拒否弾劾！不当解雇
撤回！学費値上げ反対！学寮廃止撤回！賃金
不払い弾劾！機動隊・暴力団導入弾劾！
嘉数女子学園闘争の勝利をめざし、総力を
上げて闘おう！

嘉数女子学園の民主化をかちとる 6・27総決起大会に結集しよう！

沖教組・県労協に結集する全ての仲間の皆さん、嘉数女子学園の高校生・短大生・父母・同窓生の皆さん、更に県民の皆さん！
私たち沖教組並びに嘉数女子学園の民主化をかちとる共闘会議は、宮国理事長退陣・諸要求実現をかちとり、女子学園闘争の勝利をめざす六月二十七日の総決起大会に多くの仲間が結集することを心から呼びかけます。
五・二九総決起集会を四千名余の結集をかちとり、大きく盛り上げて以来、共闘会議には、高校の同窓会が新たに加わり、実に七者による学園ぐるみの闘争組織体として強化されています。
更に女子学園分会から沖教組の各支部・分会へのオルグが強化され、深く浸透していると同時にその闘いの輪は、日教組九州ブロック青年部に於いても、女子学園闘争の支援が決議され、今や日教組へも闘いの炎は燃え広がっているとしていきます。
このように、いま女子学園闘争は着実なもり上がりを見せています。
六カ月余にもわたる一切の賃金不払などの悪辣な弾圧に抗したねばり強い闘いに追いつめられた宮国理事長は「やめたい気持、もう少し闘ってみたい気持がある。」(宮国発言)と消耗と動揺の中ですごしているのです。
しかし、宮国理事長は、追いつめられながらも、司法権をたくみに利用して闘争破壊をたくらんでいます。那覇地裁は、宮国理事長による、「六月三日までは学校をつぶすのを持つ」とする、無責任な廃校キャンペーンを真に受け、政府・文部省からのテコ入れもあつて反動的調停策動にのり出したのです。いわゆる裁判長は、現理事会の権限を委譲した、「第三者による暫定理事会の構成で組合は団交せよ」という提案を今日に至っては、「実効性がないのでとり下げる。」とし、自らが反古にしてしまいました。

学費にあつては、宮国理事長による、デッチ上げ赤字攻撃に屈し、短大はもちろん、高校の在学生をも含めた学費値上げを公然化させると共に、解雇は撤回するが、来年の三月までの期限付きだという極めてぎまんの調停を策動してきました。
ただ宮国理事長による、沖縄信販(宮国企業)への三千五百万余の学費不正流用の件を重大な問題としてとらえたことは、事実にもとづく正しい判断であると考えます。

那覇地裁自らが調停作業を反古にした現在、われわれは、教育現場に機動隊導入を策する立入禁止仮処分に対して、却下の闘い、あるいは、決定された場合の沖教組・共闘会議を中心に、那覇地裁に対する大衆的抗議の闘いに決起しなければなりません。
六・二七総決起大会は、今後の闘いを展開していくた

嘉数女子学園の民主化をかちとる総決起大会

と き：六月二十七日(金)午後五時三〇分
と ころ：与儀公園

主 催：沖縄県教職員組合
嘉数女子学園の民主化をかちとる共闘会議

(短大一部・二部学生・高校生・父母の会・短大・高校同窓会・嘉数女子学園分会)

めにも重要な意義をもつものであります。
沖教組は、六月十六日中央執行委員会を開き、次の事を全会一致で決定しました。すなわち、女子学園闘争が組織にかかわる重要なたかいかいであることを明確に位置づけ、六月二十七日に沖教組と共闘会議が主催する総決起大会を全員動員をもって成功させる事を決定し、更に闘争方針をより具体化し、組織の総力をもち、女子学園闘争勝利のためとりくみの強化を確認しました。
このように、女子学園闘争は、今またかいかいの質量にわたって大きく拡大・強化され、盛り上がりを見せています。
沖教組・県労協に結集する全ての仲間の皆さん、嘉数女子学園の高校生・短大生・父母・同窓生の皆さん、更に県民の皆さん！
われわれは、先ずもって、六・二七総決起大会の意義を確認しよう！
第一には、五・二九沖教組私学支部・共闘会議の主催する総決起集会の圧倒的成功にふまえてさらに、沖教組・共闘会議が主催する総決起大会へと発展強化されていること。沖教組が共闘することによって女子学園分会の闘いが今や文字通り、沖教組全体の闘いへと盛り上がっていることです。
第二に五月二十一日よりの欺瞞的オリエンテーションを、学生自らの抗議行動で粉砕する事を通して結成された共闘会議が沖教組と共催して総決起大会をもつことにより宮国理事長を中心とする理事会の、学園私物化を更に糾弾し、最終的においつめていく意義ある大会であること。

第三に六・二七総決起大会をもっていくことが、女子学園闘争を全県民的な闘いへと押し広げ、更に立入禁止仮処分による機動隊導入を歯どめしていくためにも重要な意義をもつものであります。
第四に、分会の闘いを文字通り、沖教組全体の闘いへと押し広げることにより、分会に大きな励ましになるとともに沖教組そのものの組織強化をかちとる意味でも重要であること。更に、共闘会議が共に決起することは、ストライキを基軸にして闘うこと、その闘いの中からこそ真に父母との連帯を克ち取ってきた意義を確認しなければなりません。
第五に、宮国理事長による暴力団、機動隊の導入をもつての闘争圧殺を狙う、ギマン的授業再開の狙いを見抜き団交を即時実現させて、問題の解決を図り、正常な中で授業再開が実現するよう、広く訴えていくこと。
われわれはかかる重要な意味をもつ、六・二七総決起大会に多くの仲間が、そして多くの父母・学生・生徒・同窓生が結集する事を心から呼びかけるものです。
この大会を成功させる事が、真に女子学園に民主化をかちとるうえで大きな力になります。
闘争勝利をめざし、共に立ち上がりましょう。

社会主義を旨とする沖縄女性解放闘争の地平を切り拓け!

7月上旬 沖縄女性解放闘争の地平を切り拓け!

沖縄女性解放会議(連)

6. 28集會に結集された青年労働者、学生、市民のみなさん。
とりわけ全沖縄の女性のみなさん。

4. 30ベトナム武装民族解放革命の嵐は、プロレタリア階級の最後の勝利への確信——何よりと被抑圧人民・プロレタリア解放の一翼をベトナム女性が革命的に打ち取ったという事実である。

歴史を自らの手で創造し、絶えず新しい団結を創り出すこととするベトナム女性の歴史的勝利への教訓は、自らの運命を自らの手で握りしめる潮流へと継承されねばならない。

女と子供が帝国主義スルジョアジの侵略戦争のエジキとなることを一切拒否し、全生活領域での徹底した抗戦と変革主体として登場したベトナム女性の勇敢にして大胆な革命的精神、革命的行動力を私たち沖縄女性は継承・発展させねばならないし、同時に新たな女性解放闘争の地平を切り拓かんとする沖縄(連)は、目的意識的に擴入、その組織形成を克ちとらねばならない。

沖縄女性解放闘争の 現在の低迷を革命的に止揚せよ

去る6月22日、働く婦人の集會に於て五〇〇名近くの婦人労働者を結集して開催、各分会討議を終えた後、全体会議で7つのスローガンが採択された。だがしかし、全ての労働者、学生、市民のみなさん。

とりわけ、婦人解放の前進に向けて奮闘しているところの婦人労働者のみなさん。

わたしたちは、働く婦人の集會に参加して現在の婦人運動の後退的側面に疑問をなげかけると共に明確な政治性を提起していかねばならないと考えます。職場での婦人部の日常的闘争の一面面を評価しつつも具体的政治行動を提起できない婦人指導部の弱さを明確に抱えかえさねばならない。

「職場に問題点を打ちかえり再度討論を深化させ組織を拡大せよ。」主義——あたかも組織的量的拡大が目的の強化であるという前衛的観点の欠落ない後退性としてある。わたしたちは毎年毎年幾度となく婦人指導部の討論主義、組織主義を耳にしてきたのかを考えて見よう。官僚的婦人指導部に依拠することか婦人解放運動の腐敗と後退を余儀なくさせることを認識し、屋

良革新果政の欺瞞性を批判して立ちあがりつつある下部婦人労働者のつきあひを断固支持すると共に、そのつきあひに耳をかきつけない指導部へ、はっきりと活べつ言葉を送り、新たな婦人運動の潮流をつくりあげねばならない。

七月旬沖女解放会議(準)より

6. 28集会に結集された労働者・学生・市民の皆さん。

沖縄女性解放会議(準)より 七月旬結成集会に向けた呼びかけをしていきたいと考えます。わたしたちは去る3・16女の解放を待ち取るシンポジウムによって出会うことのできた女性達の熱い連帯の場であり、沖縄の地に女性解放の一大潮流を形成せんとする沖縄女性の組織である。

差別、抑圧、貧困の中で更に女性差別を一身に背おわされてきた沖縄女性達。

日米帝の支配下で基地沖縄の底辺に押し込められて来た沖縄女性達。

わたしたちは何より今日、海洋博をテーマとしたところの「基地、CIS 観光買春の島」へと沖縄が大改造され様としている時、海洋博見物き名目としたヤマト人の買春観光は、ヤマトの沖縄に対する、そして男性の女性に対する、沖縄女性にとって二重の差別であり、さらにホテルのメイドという名目で、「韓国」人女性を運行し、キーセン観光の導入かはかられんとしている時、はっきりとこれを阻止し、買春観光を計画しぬき、差別、民族排外主義、分断攻撃を粉砕してゆかねばならない。

同時に、資本主義社会の安全弁として女性を底辺下層労働者として差別形態での戦場進出を促進せしめ、他方で家事・育児にしばりつけんとする抑圧攻撃を糾弾していかねばならない。わたしたちは、今即ち労働労働者の団結に連帯するときに、地域住民運動の先頭を担っている全沖縄を守る会の婦人連の肩口に呼応して婦人運動の質的飛躍を待ち候うことを決意して全沖縄女性に訴える。沖女解に結集せよ。

沖縄女性解放会議(準)

一九七五・六・二三

臨戦態勢続く猛訓練

沖縄駐留米軍をみる

入道雲を背に、タークシーンに空襲されたF4Cファントムが、ドッグファイト(格闘戦)訓練を繰り返す。その横を、深海魚のような黒い長距離戦術偵察機SR71が矢のようにかすめる。暑く焼けた浜辺では、防弾チョッキに身を固めた完全武装の海兵隊員が、野獣のような雄たけびをあげて上陸作戦の訓練中。在沖縄米軍はこのほど、ベトナム戦後をはじめ陸、海、空軍、海兵隊の各部隊を公開した。そのなかには、カンボジア沖のマイグエス急遠・コタン島上陸作戦で血を流した海兵隊員もいた。そして緊張する朝鮮半島へ連日、偵察機が飛びたち、一個大隊が常に出勤態勢にあった。海兵隊第三師団長は、今後、朝鮮半島への出勤の可能性も否定しなかった。ベトナム以後、西太平洋地域の防衛線を後方に下げつつある極東米軍にとって、沖縄はやはり、要石。海洋博を目前に、にきわみみせている沖縄の、金網一枚隔てた基地のなかには緊迫があった。

全島の一間以上が米軍基地の沖空群を占める。公表されているには、約三万四千人の米軍が駐ないが、M48戦車六十両、F4E留する。内訳は海兵隊二万八千、F7水陸両用戦闘車四十両、人、空軍八千五百人、陸軍五千五、ファントムなどの航空機九十機、百人、海軍三千人である。とりわけ「ヘリコプター百十機を持っていけ」「いつでも上陸作戦を始める。このうち歩兵一個大隊と戦に当たる海兵隊は、第三師団がヘリ一個飛行隊(約千五百人)西太平洋で最大規模のキャンプハは常時、第七艦隊に乘艦してインゼンをはじめ六カ所の基地に展開する。沖縄の部隊は、一個大隊がいて、猛訓練に励んでいた。ついでも出勤できる態勢だった。

同師団は三つの連隊と、戦車大、同師団第四海兵連隊の新兵約三隊、水陸両用戦闘車大隊、海兵航百人は、沖縄海洋博が行われる本

6月29日 朝日新聞

部半島と反対側の東海岸(ブルービーチ)で、上陸訓練中だった。隊員の平均年齢は十九歳。二、三以上もある防弾チョッキに身を固め、M16ライフルを握り、焼けた砂の上をはい、突撃する。「隊員の士気は？」と質問したら、一言に「アルトカット」。海兵隊獨特、野獣のような雄たけびだった。連隊長のグレイ大佐(右)は、朝鮮戦争時に入隊した生粋の海兵隊員。「カンボジア沖のマイグエス急遠に当たったのは、フィリピンで洋上訓練中だったのが連隊の

だ。将来も合同演習は行う予定だ」と訓練の重要性を強調。「今後、出勤の可能性もあるアジアの焦点は」の質問に、「朝鮮半島とラオスだ」といった。

米空軍は、嘉手納基地に第一、機務戦闘航空団と第三七六戦闘航空団を展開している。F4Cファントム二個飛行隊約五十機、RF4Cファントム偵察機一個飛行隊約二十機、KC10空中給油機一個飛行隊約三十機、それに世界一の性能といわれる長距離戦術偵察機SR71など。

ジョンソン元大統領が自らその存在を暴露したR71の警報は、厳重に守られていた。基地の中に空に「シート」が設けられ、許可証がなければ将校も出入り禁止である。駐機場とみられる場所はF71で自かくくまれている。米海軍関係者の口からは「一度もR71の名は聞けなかった。しかし、基地に向かうパスのおかげで、東の空へ突風のように急角度で上昇するその姿を見た。県民も、毎日午前十時ごろ、入道雲の中にあつという間に消える姿を、目撃

ラオス・朝鮮に照準

二個小隊だ。簡単な作戦だった。コタン島の陸上作戦でも、沖縄で訓練中の隊員が派遣された。午後十時に待機命令を受け、午前零時には出勤態勢。三六時間後には作戦に参加。抵抗は激しかったが、成功した。

師団長のホートン少将(左)は「わが師団はこの一年間に、西太平洋地域で同盟国と六回の合同演習をした。フィリピンが三回、韓国が二回、オーストラリアが一回

潮風が吹き抜ける清走路。ターシ続いている。

師団長以下、全員が単身赴任。これは、臨戦、即応態勢を意味する。緊迫のなかで、偵察機が毎日、飛びつた沖縄は、アジア化を、という訓練だった。第一八航空団の師団司令官ヘイナー大佐は「七月中には、一個飛行隊が新型のF4Dファントムに切り替えられる」と語った。司令官のマッシュリン海将は、RF4Cファントム偵察機が毎日、韓国へ飛んでいることを明らかにした。

(原田 義孝記者)



沖繩通信 5号

発行 沖繩通信編集委員会

発行日 1975.7.10

頒価 300円

連絡先 那覇市東郵便局
私書箱 2035号